

JOCV 千葉 OB 会報

2010 冬
2010 年 1 月
No.81

JOCV 千葉 OB 会

■ホームページ: <http://www.jocvchiba.net> ■発行責任者: 吉田憲司(青年海外協力隊千葉 OB 会会長)

1. 会長挨拶

千葉OB会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。2010 年(平成 22 年)も皆さまにとって明るく良い年でありますよう祈念いたします。

さて、ご存知のとおり昨年(‘09年)11月24日に行政刷新会議・事業仕分けにて国際協力予算関連で協力隊事業も俎上になり、協力隊事業の縮減、広尾の売却等のショッキングな結論が報道されています。対応されたお役人さん、しっかりして下さいよ、と言いたくなる内容ですが、協力隊に関係しない一般の方々には殆んどがあの様な感覚で事業を認識されているのだと思います。我々経験者が外に対して協力隊の何たるかの説明・広報が皆無に等しいほどに出来てなく、その付けがこの様な結果に結び付いたのでしょう。個々の内容に反論していても展望が開けない状況を踏まえ、12月12日にJOCA評議員会(諮問会議)が緊急招集され、一般の方々特に現在政権党の議員さんたちに事業の内容、意義をしっかりと理解して頂くため活動していく緊急アピールが決議されました。事業の内容理解頂くことに真剣に取り組まなければ「いつまで 協力隊事業なんかをやっていくつもりなの?」ということになるのだと思います。

約1,500名を超える千葉県出身の協力隊経験者が居ながら、千葉での協力隊地域OB会としての実態は、本年会費納入を頂いた方々が約130名ほど、OB会活動に参加頂いている方々は10名を超える程度です。OBの皆さまに如何に参加・協力して頂ける会となるには、と試行錯誤の毎日で活動を続けてますが、OB会への参加者は増えません。協力隊活動を経験してきた千葉県内の方々のネットワークを途絶えさせることが無いよう協力隊経験とそのつながりを通じた連帯感を共通の基盤として、今年2010年(平成22年)も前年同様、気を引き締めて「協力隊事業縮退」等と言わせない活動に取り組みたいです。皆さま今年もどうぞよろしくOB会へのご協力・参加をお願いいたします。

会長 吉田 憲司 (平成2年度1次隊 ポリヴィア 搬送)

目 次

1. 会長挨拶 吉田憲司
2. 応募促進キャンペーン 千葉キャラバン
3. グローバルフェスタ Chiba 2009
4. 聞こう話そう協力隊～帰国隊員報告会～
5. グローバルフェスタ JAPAN2009
6. JICAボランティア秋募集説明会
7. JICA国際協力エッセイコンテスト 2009
8. 秋のわいわいフェスティバル
9. JICAボランティア家族連絡会
10. 千葉県協力隊を育てる会準備会交流会
11. 関東ブロック会議(山梨)
12. 壮行会・県庁表敬訪問
13. 行事予定

OB会からのお願い・編集後記

資料 平成21年度役員名簿(HP掲載版は省略)

JOCV 千葉 OB 会 <http://www.jocvchiba.net>

2. 応募促進キャンペーン 千葉キャラバン

社団法人青年海外協力協会からの広報でご存知の方も多いと思いますが、JOCA による全国応募促進支援キャンペーンの一環「キャラバン隊」が、千葉県の全市町村の首長を表敬訪問しました。

7 月 9 日に県庁で行われた出発式では、キャラバン隊の高橋さん（千葉県キャラバン隊長）・緑川さんをはじめ JOCA 金子会長や千葉 OB 会から多くの OB/OG が参加し、石渡副知事に激励の言葉を頂きました。その盛大な出発式のもと発車した地球色の青いキャラバンカーは、8 月 27 日までの約 2 ヶ月間県下を走り回りました。

千葉県出身の隊員 OB（常時 2 名）のキャラバン隊員を中心として、地域の OB・OG と連携しながら千葉県庁をはじめ、県内各市町村を表敬訪問し、協力隊の歴史・活動の報告・説明や、地域で活躍している OB・OG の紹介を行いました。各首長達は熱心に耳を傾け頂き、応募者の増加・帰国隊員の地域への還元等について、議論を重ね協力を求めることが出来ました。派遣中隊員への熱い応援メッセージなども書いて頂いたり、夏よりも熱いキャラバン隊でした。

なお、キャラバン終了後、高橋キャラバン隊長より県内キャラバンに使用した千葉 OB 会ロゴ入りスタッフTシャツを OB 会へ寄付頂きました。（報告者：崎山）



3. グローバルフェスタ Chiba 2009

日時：8 月 23 日（日） 10:00-16:00

場所：千葉大学 けやき広場・生協食堂 他

千葉大学のけやき会館で行われるこのイベントは、今年で三年目を迎えます。千葉 OB 会のブースではスリランカの物品販売、協力隊活動のパネル展示などを行いました。場内には千葉県の国際交流団体のブースが多数立ち並んでいるので、差別化を図るのは大変だな、と正直思いました。しかし、さすが協力隊。「実は私も隊員でした」という人が積極的に立ち寄ってくださり、帰国隊員の交流の場としての大きな役割を果たしていました。国際協力に関心のある方に、何らかのメッセージが届いていたら幸いです。（報告者：安藤）



4. 聞こう話そう協力隊 ～帰国隊員報告会～

千葉OB会では、「聞こう話そう協力隊」と銘打って、帰国隊員報告会を行っています。
本年第一回目の開催を以下のとおり実施しました。

日 時：2009(平成 21)年9月5日(土)14:15～

場 所：京葉銀行文化プラザ

帰国報告者：藤田 恵里 18 年1次隊 ヨルダン 理学療法士

佐藤 久卓 18 年3次隊 ガーナ 村落開発普及員

参加者(OBを除く)：18名

■H18-1 ヨルダン・ハシミテ王国 理学療法士 藤田 恵里OG

ヨルダン・ハシミテ国の国の紹介から始まって、隊員活動の報告をして頂きました。

イスラムへの協力隊への参加による女性隊員としての派遣で、衣食住や職場での活動において、文化・風習の違い等いろいろな意味での異文化体験をとおし、たくましく活動されて来た内容が画像と共に語られ、会場の参加者と一体となった体験共有が図られた。また活動の状況を聞く言葉の合間に隠された苦勞を感じ取って頂いていた様子でした。

また、帰国後協力隊経験をさらに活かすべく千葉の植草学園大 保健医療学部 理学療法学科に従事しながら協力隊での海外活動の経験を活かし、後輩の育成や異文化での理学療法の活動について教鞭を取られています。



■H18-3 ガーナ共和国 村落開発普及員 佐藤 久卓OB

西アフリカで最初の独立国ガーナの<トロン村>という村落に村落開発普及員として赴任の佐藤OBの活動発表は国の紹介から始まって、トロン村という首都よりかなり離れた小さな集落の事情を説明し、村落開発という職種にとらわれず村の方々との交流や何も無いところでの飲み水等水の確保から始まるマラリア対策やコンピュータの講義 盗難対策等有りとあらゆる内容を日常的な現地の方々との食住を共にした協力隊の真髄とも言える活動内容での報告を現地の踊り等の動画も駆使したプレゼン資料にまとめられ発表をされていました。参加の方々への説明もマラリアにかかった体験などを交えお話しされていましたが、決して危険というような印象ではなく、実際派遣中の隊員の家族の方々からも信頼の出来る情報として受け止められていたようです。



なお、二本松訓練所に入所直前の H21 年 3 次隊ガーナ派遣候補生の方々の参加もあり、有意義な良い雰囲気での発表でした。帰国後は、前職に復帰され協力隊での2年間の海外生活・活動の経験を活かして職場でご活躍中です。

■ 藤田 OG 佐藤 OB とのパネルトーク

前回の「聞こう話そう協力隊 in Chiba」より、帰国隊員の方々の活動発表のあとに発表者の方々と吉田がパネルディスカッションを実施しています。

今回はヨルダン理学療法士派遣の 藤田 OG と、ガーナ村落開発派遣の佐藤 OB とに、協力隊へ応募動機、任国・現地での異文化体験、日本と環境の異なる外国での衣食住、職場や一緒に活動する現地の方々を通した経験等詳細な中身を個々の確認する等、活動の内容を細かく会場の参加の方々の質問も交え実施したことによ

り協力隊のナマの実態、本音のところや現地の詳細な実態が発表のお二人から聞け参加の方々からも評判が良かったと思います。

■今後の取り組みのために

今回は留守家族の方々、訓練前合格者、地域新聞社、市町村国際交流協会役員の方等多彩な参加者が来られ有意義な報告会(発表会)となりました。



終了後に参加者からアンケートと取りましたので結果を報告します。(報告者: 吉田 アンケート取りまとめ: 田村)

アンケート結果:

■今後の取り組みのために、みなさまの率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

- 21 年3次隊でガーナにいくものです。ためになりました。〔30 代・男性〕
- 今日の体験談を聴いて、お二人共、2年間では足りなかったような感を受けました。実際2年間では指導をする上で不足と思います(私だけかも)。3年間ぐらいは(最低でも)指導に当てる事が出来たら、現地スタッフも助かるのではと感じ入りました。何れにしてもご苦労様です(皆さん)。〔50 代・男性〕
- 11 月に家族会があると思いますが、楽しみにしています。〔50 代・女性〕
- 現地で活動が良く解りました。娘も同じようにがんばっている事だと思いました。帰国のことについてもう少し話が聞けたら良かったです。ありがとうございました。〔50 代・女性〕
- 大変なお仕事をしている様子がわかりました。異文化の中に入って自分の知識や技術を伝える事はむずかしいと思いました。〔50 代・女性〕
- ①ヨルダン、理学療法士、藤田さんの話は、国情、宗教、社会の異なった事情、仕事のやり方、日本へ帰ってから日本の福祉に対する見方が変わったこと。興味ある内容であった。②ガーナ、村落開発、佐藤さんの話は、アフリカの現状、インフラ不足、水源調査、地図の作成などの外、コンピューター授業、クイズによる保健衛生啓蒙の話が興味あった。＜トロン村＞の音楽入りスライドショーも面白かった。準備が大変でしょうが、この種の催しの機会を多くして、JICAボランティア活動を多くの人に知ってもらえることを期待したい。発表者も多くしたい。〔60 代・男性〕
- 聞こう話そうの企画は、自分の子供が協力隊に参加しています上で、非常によかったと思います。〔60 代・男性〕
- 本日、帰国講演をされた藤田さん、佐藤さんのお話を伺って、我が子が現在赴任している地で、御2人の様にしっかりと任務を遂行しているのかしら…と心配(むしろ不安)になりました。〔60 代・男性〕
- パネルディスカッションで具体的な質問により、かなり本音を聞かせてもらった。⇒質問時間がたっぷりあったことが良かった。〔60 代・男性〕
- 大変参考になりました。〔50 代・男性〕
- たくさんの隊員の話が聞きたかったです。〔50 代・女性〕

■ その他、開催してほしい催しなど、ご自由にお書きください。

- 日本と違う生活をしている子供の事が心配です。現地で話を聞かせてほしいです。〔50 代・女性〕
- 帰国報告会、国際フェスティバルの参加などを通じて、青年海外協力隊の活動の紹介・PRは必要とされることと思う。〔60 代・男性〕
- 現地視察についての事前説明をお願いしたい。〔60 代・男性〕

・報告会参加者

■参加者の性別・年齢・職業

- ・男性:7、女性:5、計:12 (20代:0、30代:2、40代:0、50代:6、60代以上 4、計:12)
- ・学生:0、会社員:1、公務員:1、教員:0、団体職員:1、主婦:4、自営業:1、NPO・NGO:0
- その他:3(JICA シニアボランティアの会、無職、国際交流協会会員)、未解答:1、計:12

■ この催しをどのようにして知りましたか? (該当するものに○をつけてください)

案内葉書:8、インターネット:2(合格者コミュニティサイト)、メーリングリスト:1、
グローバルフェスタちば 2009 で:1 計:12

5. グローバルフェスタ JAPAN2009

グローバルフェスタとフェアトレード商品

皆さんは『フェアトレード』という言葉を知っていましたか。

直訳すれば『公平な貿易』ですが、対話、透明性、敬意を基盤とし、より公平な条件下で国際貿易を行うことを目指す貿易パートナーシップを基本とした新たな貿易の形として始まった運動のことです。

特に「南」の弱い立場にある生産者や労働者に対し、より良い貿易条件を提供し、かつ彼らの権利を守ることにより、フェアトレードは持続可能な発展に貢献することを目的としています。

その概要は下記の 5 項目を保証することを遵守することになっています。

1. 生産者へのフェアトレード価格を保証
2. 生産者の社会的な発展を保証
3. 生産者の経済的な発展を保証
4. 生産者の労働環境と労働条件を保証
5. 生産地の環境保全を保証

詳細は下記 Web ページを参照してください。

特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン(FLJ) <http://www.fairtrade-jp.org/>



世界的にはコーヒー、バナナ、茶類が主要な取扱品目ですが、日本でもやはりコーヒーがよく知られているようです。

千葉 OB 会ではグローバルフェスタ JAPAN2009 に参加し、日本の NPO APCAS が取り扱うスリランカからの手工芸品(バナナの葉を原料とした紙製品と麻の小物入れ等)の販売と、フェアトレード商品の中であまり一般的ではない『切花』を少しでも普及できたらと考えて紹介、販売をさせていただきました。

正式に FLJ の認証をうけて HP 上で紹介されているケニア産の 3 社の生産者のバラのみですが、花業界ではコロンビア産のカーネーションもフェアトレード商品として取り扱われています。

OB 会では広義に解釈をして途上国からの『切花』も併せて紹介させていただきました。

あいにくケニアからのバラの入荷がなかったため、フェアトレード商品としてはコロンビア産カーネーションと途上国からの切花としてタイ産デンファレ(ラン)、エクアドル産バラなどを紹介、販売をいたしました。

切花は初めての取扱いのため、反省を多々残す結果でしたが、会場では文字通り華やかな展示で他ブースより目立つ存在となっていました。



スリランカからの手工芸品も途上国からの切花も広い意味ではフェアトレード商品と捉え、今後とも機会があるごとに紹介活動を続けていきたいと考えます。

得られた利益部分は他の行事での利益と共に、小さなハートプロジェクトへの寄付を検討いたします。(報告者: 森)

10 月 3 日(土) 売上げ

生 花 … 13,910 円

スリランカ商品 … 1,300 円 合計 15,210 円

※古切手の販売は悪天候のため行ないませんでした。

10 月 4 日(日) 売上げ

生花・古切手 … 23,850 円

スリランカ商品 … 18,400 円 合計 42,250 円

二日間合計 57,460 円(売上げ合計)

6. JICA ボランティア秋募集説明会

10～11 月、千葉、船橋、柏、幕張で募集説明会が行われました。受付業務を担当する傍ら、個々に体験談を求められることもありました。痛感したのは、体験談としての個人的な感想と、協力隊制度の説明は、きっちり線引きをすることが必要だということ。なぜなら制度面は年々変化しているからです。つい自分の体験を熱く語ってしまいがちですが、制度面については冷静に、JOCA の職員に対応に委ねることも必要だと思いました。

参集者の、まっすぐな視線を目にするたび、自分自身の生き方を問われているような気がします。協力隊の経験をどう生かしているのかと。この緊張感を大事にしながら帰国隊員であることの意味を模索し続けたいと思っています。(報告者: 安藤)

7. JICA 国際協力エッセイコンテスト 2009

例年同様、本年も JICA 主催の 2009 年エッセイコンテスト中学生の部について、千葉県内応募作品の 1 次審査を 9 月末から 10 月末にかけ、県内 OB の方々を中心に審査頂きました。

今年は、県内応募作品が 2,000 通を超えた昨年に比べ約 1 割ほど少ない 1,824 通の応募作品から約 1 割の 18 通を選ぶ 1 次審査を行いました。千葉県内応募総数をその選ばれた自宅審査審査員に志願して頂いた OB、OG の方々人数分(審査員約 10 名)に割振り約 1 割の作品を選んで頂き、さらに審査員全員が集まり 1 次審査の選出作品数の 18 作品を選んで頂き千葉県の代表として 2 次審査に向け返送いたしました。

また、今年より前年まで JOCA 会長賞として各都道府県一作品に贈られていた賞が廃止の危機に至ったのですが、JOCA 賞と名前を変え残り、各都道府県 OB 会の代表審査員別審査で選ばれるように変更となりました。

千葉での 2009 年の審査は、次表の参加者名簿にもありますように、新人の方々が数名参加され、また、展示イベント以外の参加の方々が数名と通常の OB 会活動に参加されない方々の参加が有りバラエティーに富んだ審査員構成となっています。このようなことからぜひいろんな方々が OB 会活動に参加できる貴重な活動方法として活用して行きたいと考えています。毎年の事ながら応募作品に接して(読ませて頂いて)いると、読んで行くうちいろんなことを作品から学ばさせて頂きました。

1 次審査で選出された千葉県作品が今後の審査でより良い成績を収められますよう応援して行きたいと思います。

(報告者: 吉田)



JICAエッセイコンテスト 中学の部 千葉県内応募作品を見させて頂いた

自 宅 及 び 集 合 審 査 員 参 加 の O G ・ O B の 皆 さ ん			
氏 名	隊 次	派 遣 国	職 種
狩 野 亜 紀	1 0 2	ケニア	ハ゜レゝホ゜ール
栗 林 徹	8 1	ハ゜トナム	日 本 語 教 師
安 藤 泰 子	6 3	シリア	日 本 語 教 師
寺 木 茂	5 3	ハ゜ナマ	建 築 施 工
崎 山 篤	1 6 2	フ゜ルカゝリア	公 衆 衛 生
木 野 本 ま ゆ み	1 3 3	カンホゝシゝア	音 楽
田 村 聖 子	3 3	スリランカ	手 工 芸
玲 木 由 香	1 3 2	イントゝネシア	栄 養 士
早 川 晶 子	1 6 1	ハ゜ナマ	
関 根 晴 美	6 2	ケニア	土 木
西 村 直 樹	1 9 1	マゝシャル	理 数 科 教 師
高 橋 淳	1 8 3	ハ゜ナマ	村 落 開 発 普 及 員
中 島 太 一	1 5 1	チリ	ハ゜レゝホ゜ール
森 永 吉	6 2 3	ホ゜リヒゝア	野 菜
玉 城 均	9 3	マレーシア (東)	造 園
吉 田 憲 司	2 1	ホ゜リヒゝア	搬 送

8. 秋のわいわいフェスティバル

昨千葉県少年自然の家の「秋のわいわいフェスティバル」の「国際交流」コーナーに参加
期日：平成21年10月25日 於：千葉県少年自然の家（長柄町針ヶ谷）

千葉県少年自然の家が主催する秋のイベントのひとつ、「秋のわいわいフェスティバル」の「国際交流」コーナーに参加しました。

OB会のブースでは、JOCVを中心にJICAボランティアの紹介のため、パネル展示と関連資料の配布を行いました。また、併せてNPOが扱っているスリランカの手作りクラフト類、タイ山岳民族の小物の即売を行いました。

当日は、元気な小学生と付き添いの父兄、学生ボランティアが来場し、ステージイベント、お祭りコーナー、地元農産物、食べ物、国際交流、自然体験プログラムを楽しみました。朝からの雨模様と寒さで、例年より来場者が少なかったようです。

OB会のボランティアの紹介については、小学生にはちょっと内容が難しかったようで深く興味を示すまでは行かなかったようですが、このような活動があることは、広報できたかと思います。学校の先生や国際交流関連の団体の若者などが、興味を示してくれました。クラフト類の販売については、女性を中心に好評でした。少し、海外に関心を持ってもらえたことでしょう。（報告者：林）



9. JICA ボランティア家族連絡会

千葉県から JICA ボランティアとして派遣されている御家族を招いての千葉県 JICA ボランティア家族連絡会が 11 月 3 日に行われ、JOCV 千葉 OB 会も協力しました。

今回は 25 家族 39 名の、19 名のボランティア OBOG、合計で 66 名の参加がありました。

御家族の不安を軽減する目的で実施されている本連絡会ですが、ボランティア事業や帰国後の進路についての説明や、(社)協力隊を育てる会より視察の旅などの説明があり、青山真弓さん(パラグアイ・看護師)が青年海外協力隊 OB を代表し、活動報告を行いました。その後の懇談会では各テーブルで御家族と OB との会話が弾み、終了時刻を延長して行いました。(報告者:木野本)



10. 千葉県協力隊を育てる会準備会交流会

～千葉県青年海外協力隊の支援をめざして～

昨年度に引き続き、2009 年 11 月 14 日(土)午後2時より、千葉市国際交流協会 会議室において、千葉県在住の「協力隊を育てる会」会員の交流会が行なわれました。千葉県協力隊を育てる会(仮称)設立準備会および(社)協力隊を育てる会の主催で開催され、隊員のご家族、設立準備会員など 40 名余りの方々が集いました。

最初に設立準備会の田中代表世話人よりご挨拶があり、続いて協力隊を育てる会の青木副会長より「はばたけ千葉県協力隊！」と題してご講演をいただきました。その後、隊員ご家族の小坂さんより、協力隊現地活動視察の旅への参加報告があり、任国ケニアでの我が子の活動の様子や暮らし、旅での驚きや感動をお話くださいました。

後半は、協力隊を育てる会より会の活動について説明があったのち、千葉県協力隊を育てる会(仮称)設立準備会より、設立に向けた呼びかけが行なわれました。青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティア活動を支援するとともに、帰国隊員の知識・経験を地域社会に還元し、国際理解・国際交流の促進の一助とするといった設立趣旨の説明があり、多くの方々の参加を呼びかけられました。(報告者:田村)

本会報に、千葉県協力隊を育てる会(仮称)設立準備会の名入り 2009 年カレンダーを同封いたします



11. 関東ブロック会議(山梨)

11 月 21 日(土)、22 日(日)の二日間にわたって開催された JOCA 関東ブロック会議に、吉田さん、崎山さん、高庄の 3 人で泊り込みで参加してきました。今年の開催県は山梨、河口湖や西湖から近く富士山が大きく見える気持ちのよい環境の中、関東(+新潟)の OB 会、JICA、JOCA からの出席者が、OB 会のあり方や活動について、意見交換、討議を行いました。各県 OB 会の活動紹介などを聞くと、OB 会の運営は一部コアメンバーの献身的な活動によって成り立っているところが大きかったり、ボランティア家族連絡会その他の行事における、JICA、JOCA との協力のあり方、過去 OB 会で工夫を凝らしながら手弁当でやってきたこととのバランスのとり方、など、似たような課題を抱えているものだと思います。討議そのものも重要ですが(もちろんこちらが、ブロック会議の第一の内容となりますが)、それと同時に、一年に一度こうして初めて会うような人たちが集い、協力隊 OB・OG というゆるいつながりの中、仲間意識を持って(仲間意識を持ちつつ、立場、年齢その他いろいろな違いがあつて)いろいろな話をできる、貴重な機会だなとあらためて思いました。山梨県の OB・OG がブロック会議の裏方として、一生懸命に会を運営してくださっているのを見て、千葉県で開催された 2 年前に私たちが飯岡でバタバタとやったなあ、というのを懐かしく思い出しました。来年は群馬県で開催される予定です。ブロック会議未体験の OB・OG の方、ぜひ来年は一緒に！(報告者:高庄)

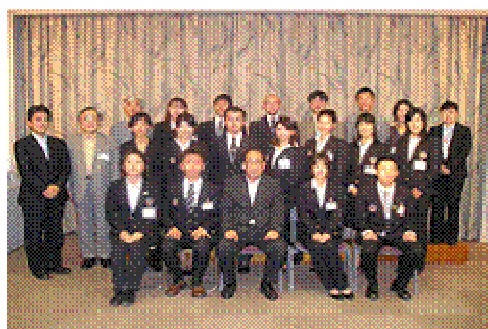


12. 壮行会・県庁表敬訪問

OB 会では新隊員の赴任前に壮行会と県庁表敬訪問同行を行っています。

壮行会では、新隊員と OB が任国の話題や活動の話題で毎回時間を忘れて語りあっています。

1. 平成 21 年度 2 次隊 14 名
壮行会:平成 21 年 9 月 12 日 県庁表敬訪問:平成 21 年 9 月 16 日
2. 平成 21 年度 3 次隊 23 名
壮行会:平成 21 年 12 月 19 日 県庁表敬訪問:平成 21 年 12 月 18 日



21 年度 2 次隊



21 年度 3 次隊

13. 行事予定

各行事の詳細は、OB 会ホームページで案内する予定です。

- JOCA 新春交歓会
 - 1 月 30 日(土曜日)
- 聞こう話そう協力隊 ～帰国隊員報告会～
 - 2 月下旬予定
- 21 年度 4 次隊 県庁表敬、壮行会
 - 3 月中旬予定

千葉 OB 会活動参加者募集

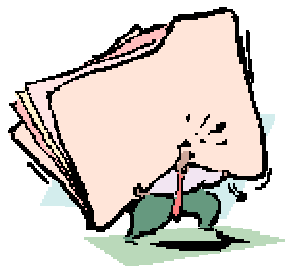
千葉 OB 会では、定例会や各種行事の参加や準備等で定期的に集まって活動しています。集会会場は主に船橋市の JR 船橋駅と京成船橋駅の間にある「船橋 Faceビル 5 階」の(船橋市市民活動支援センター打合せスペース)や船橋中央公民館の集会室等を中心に利用しています。集合の時間は土曜日の午後の 3 時ころより 5 時ころまでで、OB 会の運営内容を話し合い、その後は会場周辺の居酒屋等での飲み会を行っています。是非お気軽にご参加下さい。

各種行事の日程についてはメールとホームページで案内しています。メールアドレスをご連絡いただければ、定期的に行事案内をメールで送信しますので、以下の OB 会連絡用メールアドレス(info@jocvchiba.net : JOCV 千葉 OB 会ホームページに記載)までご連絡下さい。また、ご質問・ご要望などもお気軽に同アドレスまでお寄せ下さい。

公報担当 玉城 均

原稿募集

広報では皆様からの原稿を募集しています。頂きました記事は、広報紙面・千葉 OB 会ホームページほかに活用させて頂きます。ぜひ、原稿を下記にご送付下さい。



千葉 OB 会連絡メールアドレス
info@jocvchiba.net

皆様の原稿をお待ちしています。

青年海外協力隊千葉 OB 会の
ホームページアドレスは
以下のとおりです。

<http://www.jocvchiba.net/>

編集後記

千葉 OB 会では年に 2 回の会報発行を行っており、本号は会費納入頂いた皆さんへお送りしてます。

本号記事のように今年(2010 年)4 月の設立を目指し千葉県の協力隊応援団としての「千葉版協力隊を育てる会」が立上ろうとしています。協力隊の仲間内の集まりから一般の方々への協力隊への関わりに広げて行く試みが動いています。OB 会からの応援の一環として(社)育てる会が編集した「千葉県育てる会設立準備会」名入り協力隊カレンダーを OB 会で買取り、本会報と共に同封しお送りさせて頂きます。

本会報が今後も会員の皆様に喜ばれる充実した内容になるよう連携し取組んで行きます。

(玉城 均)